

空中写真の管理に関する懇談会<議事概要>

■ 日時 2023年3月16日(木) 10:00-12:00

■ 会場 国土地理院 関東地方測量部 会議室

■ 参加者・

- ・ 有識者委員 (敬称略) : 遠藤 宏之、國井 洋一、小林 正一 (五十音順)
- ・ 国土地理院 : 事務局 4名

■ 委員から頂いた主なコメント(要旨)

【フィルムの保管について】

- ・ フィルムからスキャニングによりデータ化され、地図更新にも使用されており、利用者の立場からすると、存在を意識しておらず、中間成果的な状態にあるのではないか。
- ・ 「基本測量成果としての保管」と「文化財的価値の保管」については、切り分けて考えるべき。(国土地理院の役割かどうかも含め)
- ・ 劣化していないフィルムについては、公文書館などへの移管も含め残したほうが良い。
- ・ 国内外の他機関の類似の保管例を参考にしたら良い。
- ・ 公共測量成果のフィルムにも同様の保管問題はあると聞く。国土地理院のフィルムの保管方針が、波及することを考慮する必要がある。
- ・ 保管については、SDGsなどが求められる時代であり、環境負荷も考慮する必要がある。
- ・ 自治体や民間測量会社へヒアリングしてはいかがか。

【フィルムの利活用について】

- ・ 学生に過去の地図作成の方法を教えるには、現物があると教えやすい。国として廃棄するのであれば、学校や博物館などへ配布し、分散保管してはいかがか。またその際の保管方法については、フォーマットを提示し、処分の判断は配布した機関に一任すると良い。

【データの活用について】

- ・ 今後 AI による自動抽出などの技術が進み、高解像度データから判読で利用されるのではないか。また自動抽出の際の、教師データとして利用されるのではないか。
- ・ 高解像度なスキャンデータは必要だが、1枚当たりの画像のデータ容量が重すぎても、ユーザの観点では利用がしづらくなる。
- ・ AI の教師データとして利用する場合の解像度は議論が必要である。